

UICCについて



UICC is determined to make a difference

- Oldest and largest cancer fighting organisation globally, established in 1933
- A non-government organisation, with a team of 45 based in Geneva, Switzerland
- More than 1200 members across 173 countries
- More than 60 partners including cancer organisations, corporations and foundations
- Official relations with UN agencies: WHO, IARC, IAEA, UNODC and consultative status at ECOSOC
- A Board elected by the UICC Membership

www.uicc.org

Led by the very best

President
Professor Ajit Durr, India

President-elect
Professor Jeff Dunn, Australia

Board of Directors

Mr Ulrika Anhed Kagerlin, Sweden
Dr Zahir Sheikh Ragab, Nigeria
Mr Hans Chir Choudh, Lebanon
Dr Christiana Ferreira, Portugal
Mr Nick Clark, United Kingdom
Prof Anne Lee, Hong Kong
Dr Ana Carolina Pires, Brazil
Prof Daniela Rodin, Canada

Upcoming election on 11 October 2022

Delivering our Purpose Statement

"We unite and support the cancer community to reduce the global cancer burden, to promote greater equity, and to ensure that cancer control continues to be a priority in the world health and development agenda."

Focusing on three key areas

Convening

Provide platforms for the entire cancer community to join forces and drive change on a global scale

Supporting innovation and health professionals to do a better job between their day-to-day activities

Providing greater equity
Increasing members' impact
Working to account for each of them in unique and may have specific needs

Capacity Building

Follow through on the World Health Assembly Cancer Resolution 2017

Integrate cancer control in the global health and development agenda

Universal Health Coverage
Sustainable Development Goals
Cancer in current challenges at global and national levels
Cancer in current challenges at global and national levels

Advocacy

Follow through on the World Health Assembly Cancer Resolution 2017

Integrate cancer control in the global health and development agenda

Universal Health Coverage
Sustainable Development Goals
Cancer in current challenges at global and national levels
Cancer in current challenges at global and national levels

We will bring the world together...

Increasing the impact of our convening activities around the world...

Ensuring that cancer control features prominently in the "Global Back Better"

Increasing the capacity of the leadership of UICC membership base to

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

Supporting a growing UICC membership base to

Identifying and addressing momentum in addressing cancer

uicc-Japan
Japan National Committee for UICC

UICC 日本委員会

Union for International Cancer Control

ワールドキャンサーデー2022

ワールドキャンサーデーは、2000年2月4日、パリで開催された「がんサミット」から始まったUICCの取り組みです。今年は公平性の問題を中心とした新しい3年間のキャンペーン「Close the Care Gap」(がん医療のギャップを埋めよう)の最初の年です。UICCは、がん治療における公平性が損なわれている現状を認識し、医療へのアクセスにおいて多くの人々に存在する障壁と、これらの障壁がどのような影響を社会に与えているのかを改めて捉えなおすことを目指しています。



Light Up the World 点灯式

今年も2022年2月4日(金)のワールドキャンサーデーにオンラインで日本と世界をつなぐ「Light Up the World」を通じて日本各地で光をつなぎ、その瞬間を分かち合うことで、この苦難の中でもがんに立ち向かう想いをひとつに致しました。

Close the care gap

後藤厚生労働大臣にも協力いただきました。



「UICCは世界を驚いてがんを戦います。」
UICC日本委員会委員長 野田 哲生

「がんの克服を目指します。」
厚生労働大臣 後藤 茂之

点灯式会場・協力団体

- [1] さっぽろテレビ塔【北海道】
協力 家礼病院、ビクトリア
in SAPPORO
- [2] 仙台スカイキャンドル【宮城】
協力 宮城県立がんセンター
- [3] 新潟日報メディアシップ【新潟】
協力 新潟県立がんセンター
- [4] 世界遺産南信濃合衆酒造【新潟】
協力 アジアがんフォーラム、
がん研究教育財団
- [5] 埼玉スタジアム2002【埼玉】
協力 埼玉県立がんセンター
- [6] さいたまスーパーアリーナ【埼玉】
協力 埼玉県立がんセンター
- [7] 東京ビッグサイト【東京】
協力 がん研究会
- [8] 大船観音【神奈川】
協力 神奈川県立がんセンター、
ビクトリア市立がんセンター、
大船観音寺
- [9] 岐阜市役所【岐阜】
協力 がん研究教育財団
- [10] 中部電力MIRAI TOWER【愛知】
協力 愛知県がんセンター
- [11] 三重大学医学部附属病院【三重】
協力 三重大学
- [12] 京都タワー【京都】
協力 京都府立がんセンター
- [13] 松江十字病院【島根】
協力 松江十字病院
- [14] がん県中央病院【島根】
協力 松江十字病院
- [15] 博多博多タワー【福岡】
協力 九州がんセンター

UICC-ARO アジアのがん医療のUHC達成を目指して

世界のがん患者のおよそ半数が発生するアジアはがん対策の重要地域である。アジアは他の地域より地理的・歴史的・民族的・政治的にはかに多様性に富んだ社会構造を取ることが指摘されており、がん医療の公平性の課題はより大きなものとして立ち現れることが予想される。一方で日本においては、国民皆保険制度とがん対策基本法に基づくがん医療の均てん化政策によってUHCが強く推進され、一見がん医療のGAPの克服が進んだ地域であると言えるが、見落とされてきた既存の構造的課題が、高度化するがん医療による医療費の増大や高齢化によるがん罹患数の増加、少子化・非婚化による家族像の変化、地方の過疎化、貧困・格差の拡大など、がん医療に影響を与える他の要因と組み合わせることによって大きな社会的インパクトをもたらしている。それらの中にはアジア共通の課題とならう可能性もあるものもある。

UICC-AROはアジア地域のがん医療UHCにいち早く着目し、官民会議の開催や本学会におけるシンポジウムの運営などによって専門家・実務家と専門家のネットワークを構築してきた。この取り組みは政策立案者やUICCから注目を集めている。昨年80 回日本癌学会年次総会で、次期会長Jeff Dunnを迎え、アジアのがん医療を支えるイノベーションについての議論をおこなった。そして今年度は日本癌学会においては、What are the core elements of sustainability for UHC for cancer in Asia?

として、持続可能な社会を目指すうえで、がんという病はどのような意味をもつのか、アジアの地域特性に根差した持続可能ながん医療の在り方を討議する。日本癌学会においては、様々な課題が山積するアジアのがん医療のUHCを達成するために、はじめて日本国内の医療格差に着目し、産官学にまたがる幅広い視点と有する演者たちとともに、「Close the Care Gap」を旗印とし、公平で望ましく持続可能ながん医療の在り方と、その実現を目指す機運の醸成について討議を行う。

オンデマンド配信 ワールドキャンサーデー・セッション

Close the care gap (がん医療のギャップを埋めよう)

セッション①
新型コロナウイルス感染症とがん診療 コロナ禍のがん対策～どのように考え、行動すべきか～
新潟県立がんセンター

セッション②
チームでとりくむ高齢者のがん診療
国立病院機構九州がんセンター

セッション③
「Close the Care Gap」誰一人取り残さないがん医療を目指す北海道のビクトリア活動
ビクトリア市 SAPPORO市

セッション④
免疫療法の開発でがんにも
愛知がんセンター

セッション⑤
医療均等化のための病理の役割
埼玉県立がんセンター

セッション⑥
がん患者を支える
大阪国際がんセンター他

セッション⑦
岐阜大学医学部附属病院
セッション
岐阜大学医学部附属病院

セッション⑧
UHCの観点から見た日本の放射線治療の問題
がん研究会研究部
日本放射線治療学会
厚生労働省 ACT

セッション⑨
悪液質治療とがん治療の道具箱に入れるには
大阪大学 京都府立医科大学
愛知がんセンター
株式会社アトム
KPMGヘルスケア/ C-ACT

セッション⑩
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑪
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑫
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑬
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑭
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑮
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑯
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑰
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑱
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑲
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション⑳
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション㉑
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション㉒
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション㉓
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション㉔
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

セッション㉕
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

2月4日限定配信 ライブセッション



ライブセッション①
がん患者が医師と治療選択を共有するためには
～shared decision making～

ライブセッション②
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション③
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション④
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑤
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑥
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑦
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑧
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑨
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑩
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑪
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑫
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑬
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑭
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑮
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑯
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑰
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑱
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

ライブセッション⑲
コロナ禍の受診控え
～病院に行くのをためらっているあなたへ～

UICC 日本委員会

UICC 日本委員会とは

UICC日本委員会 Japan National Committee for UICC (UICC-Japan)は、UICCに加盟している日本の組織が集結し、世界対がん宣言の実現に努力するUICCの支援を目的の一つとして、連携しながら活動している日本の独立組織で、事務局を(公財)がん研究会に置いている。日本の主要ながん専門学会、がんセンター、研究所、研究基金、病院、対がん協会などが参加している。

1966年
東京で開催された
UICC世界がん会議
(第9回)



UICC 日本委員会の活動内容

UICC本部と連携しながら 毎年2月4日のWorld Cancer Dayに各地でシンポジウムを、また日本癌学会や日本癌治療学会においてUICCセッションなどを実施・開催している。

山陰-吉田国際がん研究フェローションシップの運用基金を会員組織と賛助会員の寄付で用意し、UICCに委託して運営している。この事業は1975年以来40年に亘り続けられており、既に500人を超える世界の研究者が恩恵を受けており、日本の民間からの継続的貢献として評価されている。

UICC-Asia Regional Office (ARO)に活動資金を提供し、その活動を支援している。

各種の委員会を設置し、世界対がん宣言に沿った事業を企画し活動している。

UICC 日本委員会加盟組織

愛知県がんセンター
神奈川県立がんセンター
(公財)がん研究振興財団
国立がん研究センター
(公財)札幌がんセミナー
(公財)高松宮妃癌研究基金
栃木県立がんセンター
(一社)日本癌治療学会
(特非)日本肺癌学会
(公財)北海道対がん協会

(一社)アジアがんフォーラム
がん感染症センター都立駒込病院
(公財)がん集学的治療研究財団
埼玉県立がんセンター
静岡県立静岡がんセンター
千葉県がんセンター
新潟県立がんセンター
(公財)日本対がん協会
(公社)日本婦人科腫瘍学会
三重大学医学部附属病院

大阪国際がんセンター
(公財)がん研究会
九州がんセンター
(公財)佐々木研究所
(一社)全国がん患者団体連合会
東京慈恵会医科大学
(一社)日本癌学会
(一社)日本乳癌学会
東札幌病院
宮城県がんセンター

【賛助会員】 協和キリン株式会社 (山陰-吉田国際奨学金)
(公社)日本放射線腫瘍学会

UICC 日本委員会 2022年度役員

【委員長】 野田 哲生 (がん研究会)

【幹事】

総務	中釜 齊 (国立がん研究センター)
学術	増添 忠生 (日本対がん協会)
財務	吉田 和弘 (岐阜大学大学院医学系研究科)
ARO担当	野田 哲生 (がん研究会)
予防・疫学領域担当	浜島 信之 (英経会 / 名古屋大学)
事務局担当	大野 真司 (がん研究会有明病院)

【監事】

増井 徹 (慶応大学医学部)	池田 徳彦 (東京医科大学)
----------------	----------------

【UICC-AsiaRegionalOffice (ARO)】
野田 哲生 (がん研究会)

【UICC 本部】

Fellowship 委員

中釜 齊 (国立がん研究センター)

TNM 委員

浅村 尚生 (慶応大学医学部)

【名誉会員】

青木 國男 (元愛知県がんセンター)

富永 祐民 (元愛知県がんセンター)

大島 明 (元大阪府立成人病センター)

武藤徹一郎 (がん研究会)

北川 知行 (がん研究会)

田島 和雄 (元愛知県がんセンター、三重大学)

【日本委員会事務局(がん研究会内)】

神田 浩明 (研究科事務担当)(埼玉県立がんセンター)

関本 敏之 (事務委員長兼補佐)